

青森県経済統計報告

平成 19 年 11 月 5 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口(平成 19 年 10 月 1 日現在)..... 1

県人口 1,408,589 人(対前月 587 人 減少)	
自然動態	277 人減少(出生者数 765 人、死亡者数 1,042 人)
社会動態	310 人減少(転入者数 1,710 人、転出者数 2,020 人)

2 本県の経済動向

(1) 経済概況

本県経済は、消費面の弱さが続いているものの、生産面を中心に堅調に推移している。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 19 年 8 月の青森県鉱工業生産指数(平成 12 年 = 100)は、季節調整済指数が 96.6 で、前月比 3.6%の低下となり、4 ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は 92.2 で、前年同月比 4.2%の上昇となり、10 ヶ月連続で前年同月を上回った。 ... 2
- (2-2) 雇用情勢 平成 19 年 8 月の定期給与は 224,614 円で前年同月比 1.5%増となった。総実労働時間は 156.9 時間で前年同月比 0.7%減、所定外労働時間は 10.3 時間で前年同月比 14.8%増となった。平成 19 年 9 月の有効求人倍率(季節調整値)は 0.48 倍で、前月比 0.01 ポイント下回った。 ... 3
- (2-3) 物価 平成 19 年 9 月の青森市消費者物価指数は、平成 17 年を 100 として 100.2 となり、前月と比べ 0.3%の上昇、前年同月と比べ 0.3%の下落となった。 ... 4
- (2-4) 個人消費 平成 19 年 8 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 152 億 8 千 1 百万円で前年同月比 2.0%減と 6 ヶ月連続で減少、既存店ベースでは 2.9%減と 21 ヶ月連続で減少となった。平成 19 年 9 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 4,113 台で、前年同月比 1.3%の減となり、2 ヶ月ぶりに前年を下回った。 ... 5
- (2-5) 住宅建設 平成 19 年 9 月の新設住宅着工戸数は 579 戸で、前年同月比 28.3%減となり、3 ヶ月連続で前年を下回った。 ... 6
- (2-6) 電力使用量 平成 19 年 9 月の大口電力使用量は 2 億 1,131 万 kWh で、前年同月比 9.4%増となり、12 ヶ月連続で前年を上回った。 ... 6

(3) 景気動向指数(平成 19 年 8 月分)..... 7

先行指数	55.6%(3 か月連続で 50%を上回った)
一致指数	38.9%(2 か月ぶりに 50%を下回った)
遅行指数	66.7%(2 か月ぶりに 50%を上回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査(平成 19 年 10 月期)..... 8

3 ヶ月前と比べた景気の現状判断 D I	41.7(前期比 8.6 ポイント減、2 期ぶりに 50 を下回る)
3 ヶ月後の景気の先行き判断 D I	43.9(前期比 6.6 ポイント減、4 期ぶりに 50 を下回る)

1 青森県の推計人口(平成19年10月1日現在)

【概況】

平成19年10月1日現在の本県推計人口は、1,408,589人で、前月に比べ587人の減少となった。

○自然動態

出生者数が765人、死亡者数が1,042人で、277人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,710人、転出者数が2,020人で、310人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	性別		対前月増減率	増減数	自然増減数	自然		社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女				出生者数	死亡者数			
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
18.10.1	1,423,412	671,651	751,761	-0.030%	-428	-146	940	1,086	-282	1,590	1,872
18.11.1	1,422,852	671,368	751,484	-0.039%	-560	-259	946	1,205	-301	1,737	2,038
18.12.1	1,422,159	671,025	751,134	-0.049%	-693	-375	860	1,235	-318	1,201	1,519
19.1.1	1,421,519	670,706	750,813	-0.045%	-640	-503	786	1,289	-137	1,212	1,349
19.2.1	1,420,348	670,000	750,348	-0.082%	-1,171	-552	841	1,393	-619	1,099	1,718
19.3.1	1,419,497	669,462	750,035	-0.060%	-851	-393	763	1,156	-458	1,134	1,592
19.4.1	1,412,767	665,701	747,066	-0.574%	-6,730	-465	831	1,296	-6,265	3,722	9,987
19.5.1	1,412,047	665,362	746,685	-0.051%	-720	-474	794	1,268	-246	4,208	4,454
19.6.1	1,411,117	664,842	746,275	-0.066%	-930	-310	1,007	1,317	-620	1,596	2,216
19.7.1	1,410,247	664,306	745,941	-0.062%	-870	-361	812	1,173	-509	1,233	1,742
19.8.1	1,409,665	664,003	745,662	-0.041%	-582	-267	948	1,215	-315	1,939	2,254
19.9.1	1,409,176	663,804	745,372	-0.035%	-489	-414	850	1,264	-75	2,220	2,295
19.10.1	1,408,589	663,460	745,129	-0.042%	-587	-277	765	1,042	-310	1,710	2,020

9月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月		平10.9	11.9	12.9	13.9	14.9	15.9	16.9	17.9	18.9	19.9
自然動態	出生者数	1,197	1,107	1,127	1,030	1,046	1,040	986	942	940	765
	死亡者数	1,025	1,002	894	941	1,060	1,139	1,106	1,091	1,086	1,042
	自然増減数	172	105	233	89	-14	-99	-120	-149	-146	-277
社会動態	県外からの転入者数	1,931	1,757	1,867	1,643	1,758	1,842	1,618	1,738	1,590	1,710
	県外への転出者数	1,685	1,878	1,708	1,758	1,935	2,082	2,012	2,131	1,872	2,020
	社会増減数	246	-121	159	-115	-177	-240	-394	-393	-282	-310

1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口(確定値)。

2 平成18年3月以降の人口は平成17年国勢調査人口を基礎に推計している。

3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

4 算出方法

県の推計人口 = 前月の人口 + 自然増減数(出生者数 - 死亡者数) + 社会増減数(県外からの転入者数 - 県外への転出者数)

5 県の推計人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総計とは一致しない。

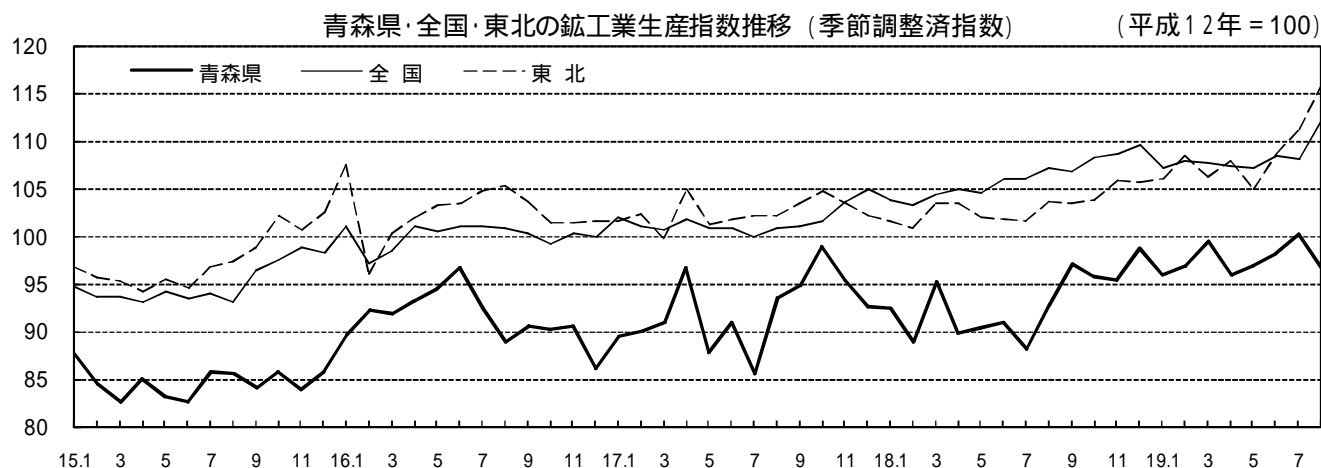
2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

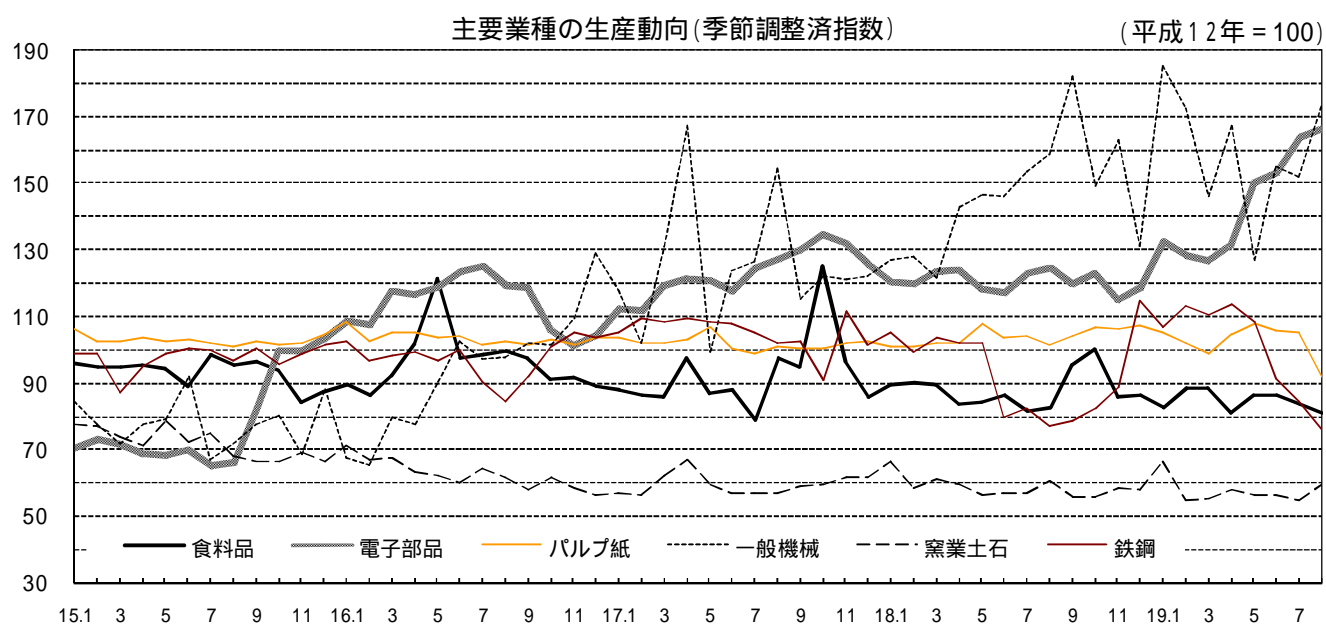
平成19年8月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が96.6で、前月比3.6%の低下となり、4ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は92.2で、前年同月比4.2%の上昇となり、10ヶ月連続で前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、一般機械工業、化学工業、金属製品工業などが上昇に寄与した一方、パルプ・紙・紙加工品工業、電気機械工業、食料品工業などが低下し、鉱工業全体では3.6%の低下となった。



業種別動向 (前月比) 鉱工業全体 -3.6%

業種	プラス		マイナス	
	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)
一般機械工業	14.5	466.8	パルプ・紙・紙加工品工業	-12.7
化学工業	21.9	201.6	電気機械工業	-8.8
金属製品工業	14.7	164.6	食料品工業	-2.8
電子部品・デバイス工業	1.7	117.2	鉄鋼業	-9.9
窯業・土石製品工業	9.1	102.2	プラスチック製品工業	-15.8



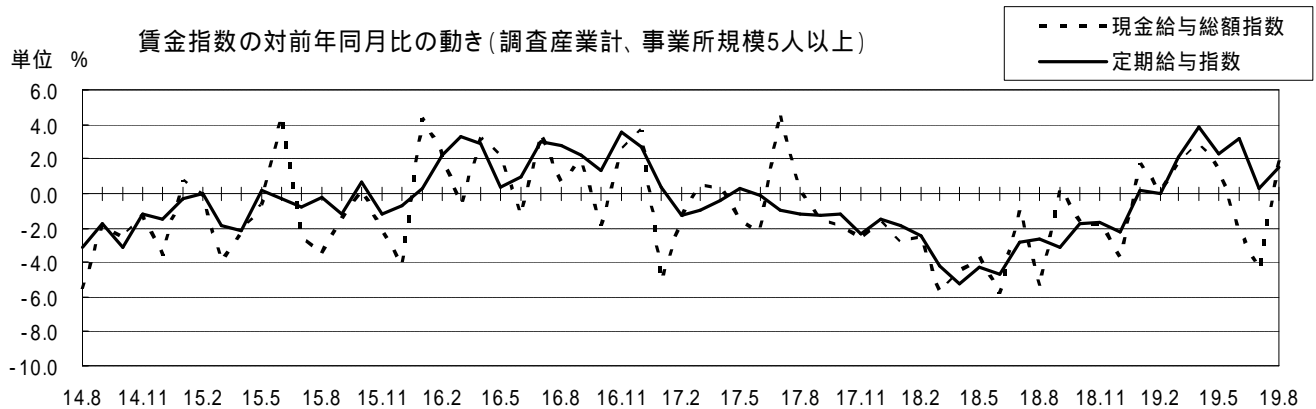
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成19年8月の定期給与は224,614円で定期給与指数(平成17年=100)では97.6となり、前年同月比1.5%増(現金給与総額236,347円、現金給与総額指数86.6、前年同月比2.0%増)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は83.7となった。

総実労働時間は156.9時間で、総実労働時間指数は98.5となり、前年同月比0.7%減となった。このうち、所定外労働時間は10.3時間で、所定外労働時間指数では104.0となり、前年同月比14.8%増となった。

平成19年9月の有効求人倍率(季節調整値)は0.48倍で、前月比0.01ポイント下回った。



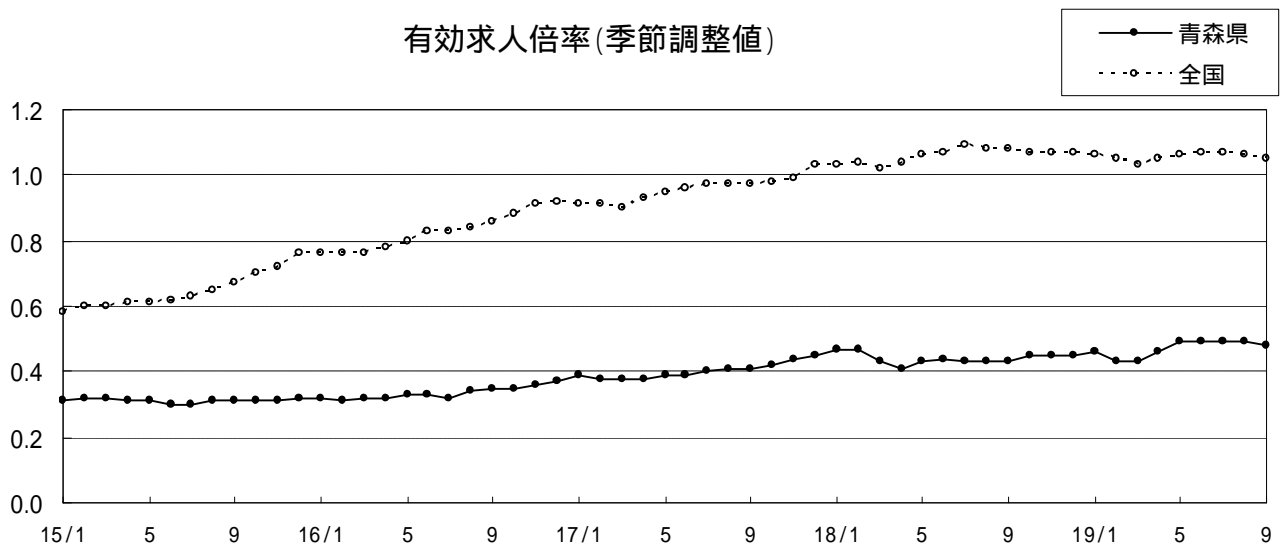
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全国	県	全国	県	全国
現金給与総額	236,347 円	284,336 円	86.6	85.8	2.0 %	0.6 %
定期給与	224,614 円	268,408 円	97.6	99.3	1.5 %	0.0 %
特別給与	11,733 円	15,928 円				
総実労働時間	156.9 時間	147.9 時間	98.5	98.1	-0.7 %	-0.6 %
所定内労働時間	146.6 時間	137.4 時間	98.1	98.1	-1.6 %	-0.6 %
所定外労働時間	10.3 時間	10.5 時間	104.0	99.1	14.8 %	0.1 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料:県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料:青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成19年9月の青森市消費者物価指数(平成17年=100)は、総合指数が100.2となり、前月と比べ0.3%の上昇、前年同月と比べ0.3%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は99.8となり、前月と比べ0.1%の下落、前年同月と比べ0.5%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は98.3となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ0.6%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.3%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数の前年同月比が0.3%の下落となった内訳を寄与度でみると、教養娯楽、光熱・水道などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

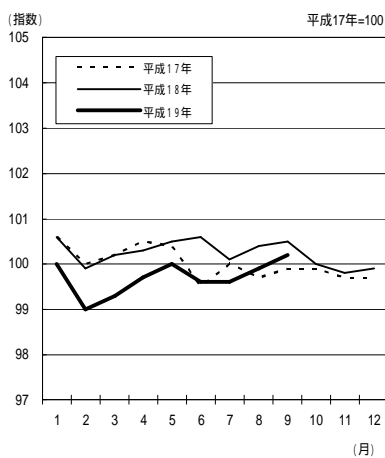


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

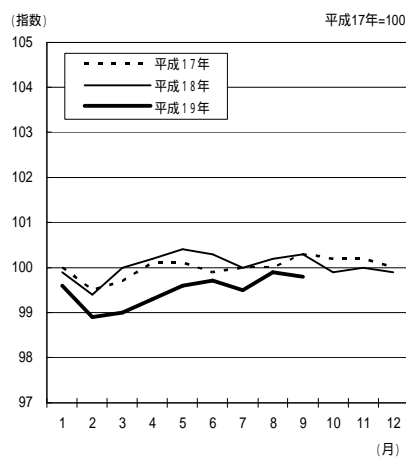
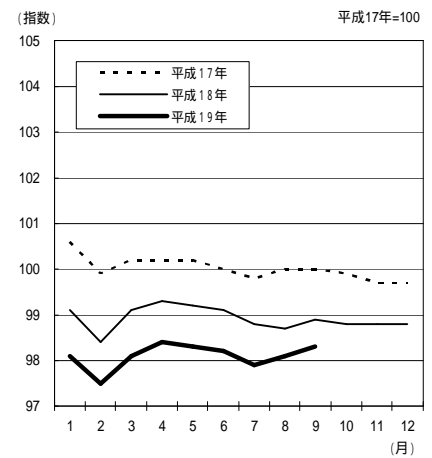


図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家賃を除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	100.2	99.8	100.4	98.3	100.0	105.9	99.2	107.7	92.6	99.0	99.5	100.9	101.2	97.0	100.4
前月比(%)	0.3	0.1	0.4	0.2	1.1	5.6	0.0	0.4	0.4	6.9	0.5	1.2	0.0	0.9	0.5
寄与度	0.30	0.09	0.34	0.13	0.32	0.32	0.00	0.04	0.01	0.26	0.02	0.13	0.00	0.09	0.03
前年同月比(%)	0.3	0.5	0.5	0.6	0.2	1.7	0.5	1.3	1.1	0.4	0.1	0.1	0.6	2.2	0.3
寄与度	0.30	0.47	0.42	0.38	0.06	0.10	0.10	0.14	0.03	0.02	0.00	0.01	0.02	0.22	0.02

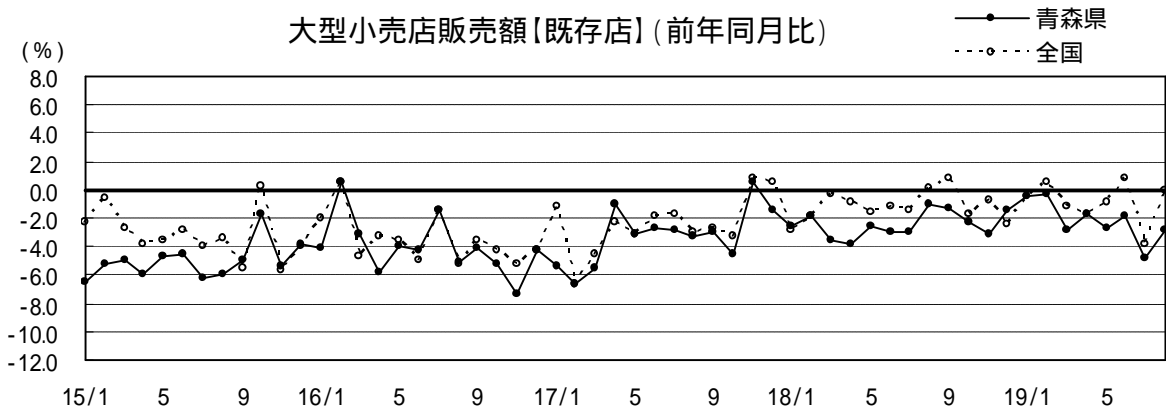
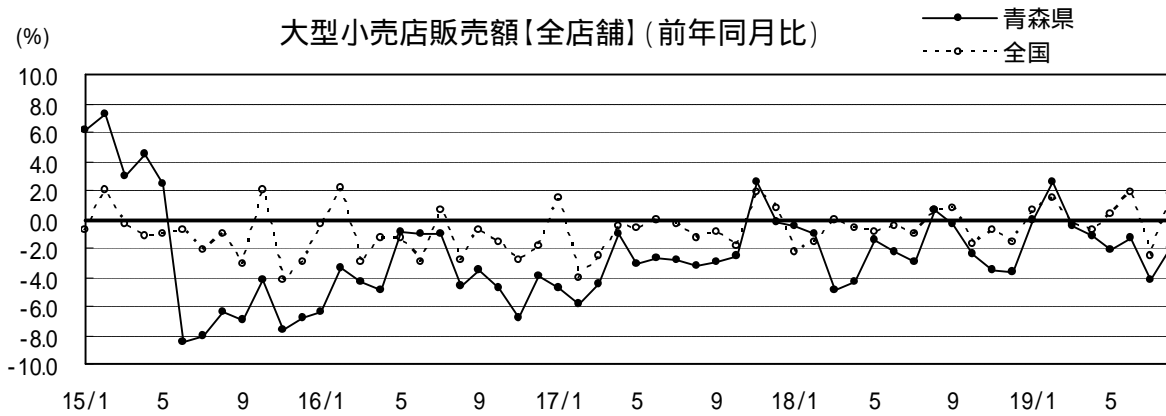
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2 - 4) 個人消費

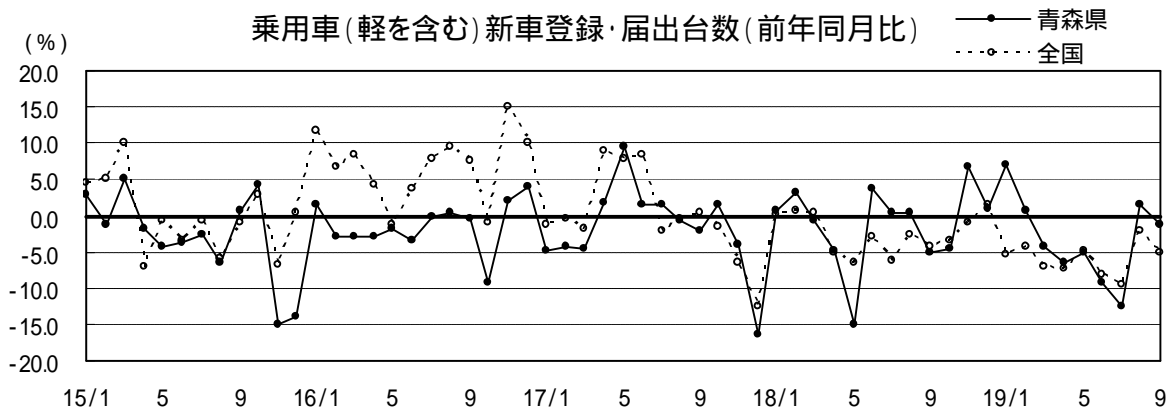
平成19年8月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが152億8千1百万円で前年同月比2.0%減と6ヶ月連続で減少、既存店ベースでは2.9%減と21ヶ月連続で減少となった。百貨店は猛暑の影響から秋物衣料が振るわず、また、スーパーは主力の飲食料品のうち生鮮食品が低調だったことなどから、それぞれ6ヶ月連続、7ヶ月連続で前年を下回った。

平成19年9月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は4,113台で、前年同月比1.3%の減となり、2ヶ月ぶりに前年を下回った。普通車が3ヶ月連続で、軽自動車が4ヶ月ぶりにそれぞれ増加したものの、小型車が18ヶ月連続で減少したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

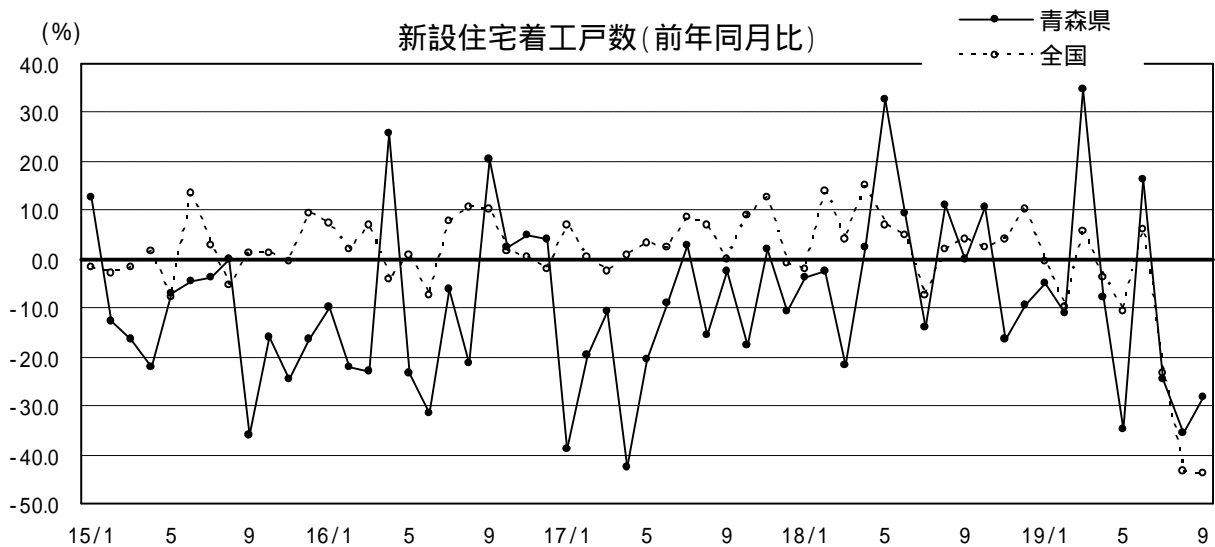
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2 - 5) 住宅建設

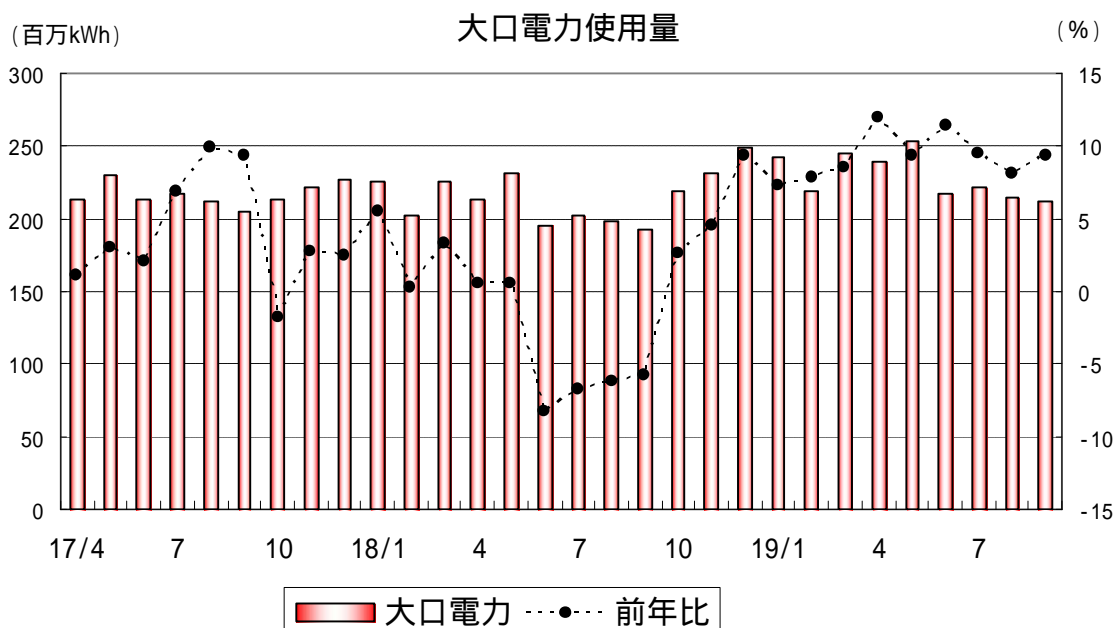
平成19年9月の新設住宅着工戸数は579戸で、前年同月比28.3%減となり、3ヶ月連続で前年を下回った。持家、貸家が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2 - 6) 電力使用量

平成19年9月の大口電力使用量は2億1,131万kWhで、前年同月比9.4%増となり、12ヶ月連続で前年を上回った。鉄鋼、機械などが稼働増となったことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

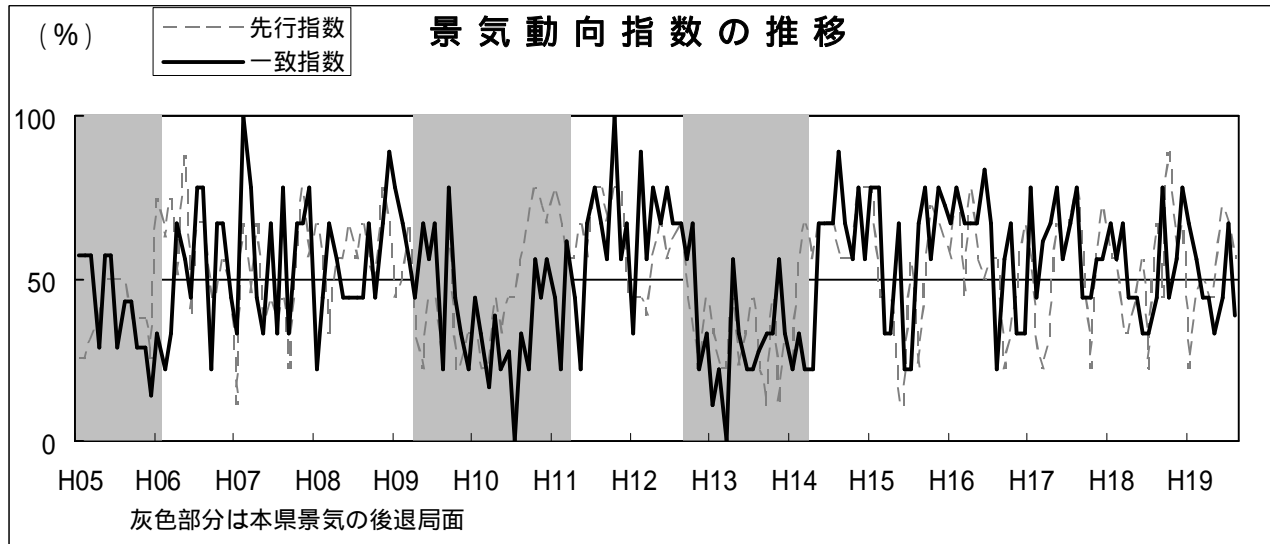
平成19年8月の青森県景気動向指数は、先行指数55.6%、一致指数38.9%、遅行指数66.7%となった。

先行指数は、3か月連続で50%を上回った。

一致指数は、2か月ぶりに50%を下回った。

遅行指数は、2か月ぶりに50%を上回った。

8月の一致指数は、生産関連等の指標がマイナスとなったことから、50%を下回った。



個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中5指標がプラス）			
乗用車新車登録届出台数	6か月ぶり	新規求人倍率（全数）	5か月ぶり
生産財生産指数	3か月連続	新設住宅着工床面積	2か月連続
所定外労働時間指数	2か月連続	建築着工床面積	4か月ぶり
入職率（製造業）	5か月連続	中小企業景況D I	2か月連続
企業倒産負債額	4か月連続		
一致系列（9指標中3指標がプラス）			
有効求人数（全数）	3か月連続	鉱工業生産指数	3か月ぶり
総実労働時間数（全産業）	2か月連続	電気機械生産指数	2か月ぶり
東北自動車道IC利用台数	2か月ぶり	大口電力使用量	3か月連続
		海上出入貨物量（八戸港）	2か月ぶり
		日銀券月中発行高	6か月ぶり
大型小売店販売額（既存店）は、3か月連続マイナスの後、保合			
遅行系列（6指標中4指標がプラス）			
勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月ぶり	単位労働コスト（製造業）	2か月連続
常用雇用指数（製造業）	6か月連続	青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	8か月連続
1人平均月間現金給与総額	7か月ぶり		
輸入通関実績（八戸港）	2か月ぶり		

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

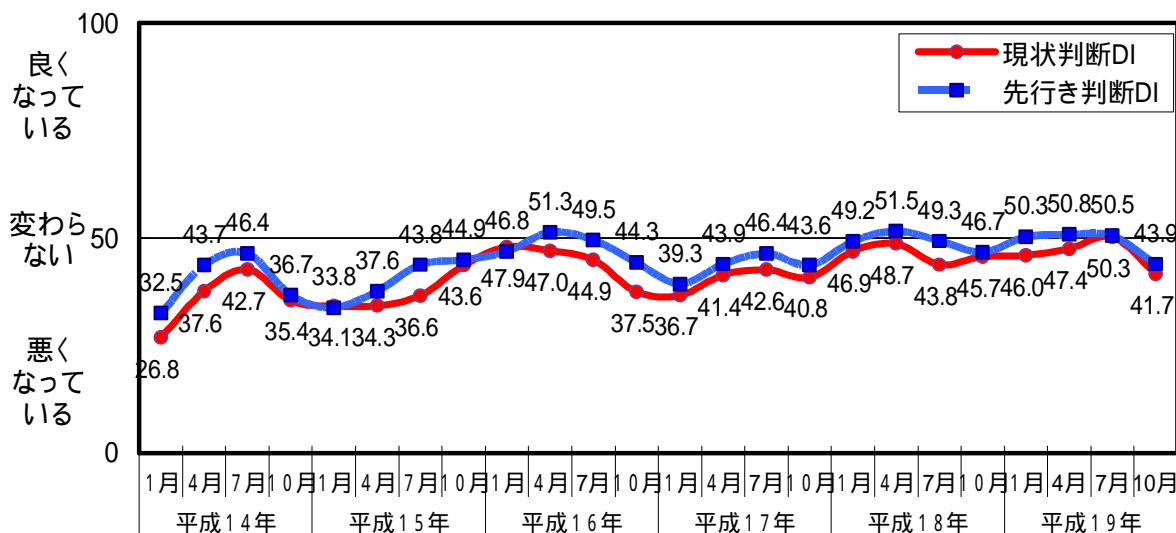
平成19年10月期の景気ウォッチャー調査は、10月1日～10月17日を調査期間とし、回答率99%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは41.7で、前期調査を8.6ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは43.9で、前期調査を6.6ポイント下回った。

10月期は、景気の現状判断DI、先行き判断DI共に前期を下回り、現状判断DIは2期ぶりに、先行き判断DIは4期ぶりに横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が11.1ポイント減少し、「やや悪くなっている」が9.1ポイント、「悪くなっている」が7.1ポイント増加したことにより、全体では8.6ポイント減の41.7となり、2期ぶりに横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由をみると、旅行客の増加や一部業種において仕事量が多いという声がみられる一方、郊外店の進出による競争激化や原材料費の価格上昇、各種商品の値上げによる消費者の買い控えをあげる声が多かった。</p>
向	<p>前期調査に比べて、全ての地域においてポイントが減少し、東青地区、津軽地区、下北地区において横ばいを示す50を下回った。</p>

3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなる」が7.0ポイント減少し、「やや悪くなる」が5.0ポイント、「悪くなる」が6.1ポイント増加したことにより、全体では前期を6.6ポイント下回る43.9ポイントとなり、4期ぶりに横ばいを示す50を下回った。</p> <p>判断理由を見ると、農産物の出来に期待する声がある一方、原油や原材料価格の上昇によるコストアップやそれに伴う各種商品の値上げが家計に及ぼす影響を懸念する声が多くみられた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、全地域においてポイントが減少し、全ての地域で横ばいを示す50を下回った。</p>

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

3か月前と比べた景気の現状判断理由

レンタカー・タクシー等利用のお客が増え、客単価も上がった。団体バスのお客は伸び悩んでいるのが現状だが、それ以上に個人のお客が伸びている。(観光名所等=東青)

仕事量が多くてやり切れないほど。ただし、コスト面では材料価格の高値で厳しい状況。とりあえず仕事があるので何とかできるでしょう。(電気機械製造=県南)

相変わらず郊外大型店に消費者集中し、商店街の来店少ない。(衣料専門店=津軽)

ここ数か月前年比較で同じ数値で推移しております。(スーパー=下北)

猛暑から家電に明るさが見られたものの、住宅を始めとする建築に明るさが見られず、全体では弱含み横ばいと見る。(経営コンサルタント=東青)

3ヶ月前と比較し、求人数が一進一退している。また、相変わらず正規雇用は少なく、非正規雇用の割合が多い。(人材派遣=津軽)

販売が思うように伸びない。また、お金を持っていると思いますが、先行き不安な為出ししづりしている。(乗用車販売=東青)

タバコ・ガソリン・カップラーメン等のさまざまな業種での値上がりが多発。消費者収入は変化ないこれでは景気回復は見込めない。(コンビニ=県南)

× 商社・建機販売店等多種の職業の方が出入りしますが、建築関連の落ち込みの話しか話題にならない。(設計事務所=津軽)

3ヵ月後の景気の先行き判断理由

予約等が前年より増加している。(観光型ホテル・旅館=県南)

今年は豊作の様なので・・・。(美容院=津軽)

一部の業種において変動は予測されるが、景気全体を底上げする投資、消費及び消費を刺激するモチベーションの高まりは予測しがたいと思います。(百貨店=東青)

原油の高騰により石油製品の値上がりにより、燃料費が圧迫すると思われる。(ガソリンスタンド=下北)

企業内努力(経費節減)や家庭での生活防衛的色合いが今後とも持続するため。(食料品製造=県南)

現状で域外店の進出等があるが、地元企業に活気が感じられない。(新聞社求人広告=東青)

原材料が高騰しており、メーカーの値上げが発表されており、業種を問わずこの傾向になると思われる。所得が伸びずさらに消費が停滞すると思う。(卸売業=県南)

原材料は高値のまま推移し、紙の値上がりにより梱包材も値上がりし、収益に悪影響を及ぼす要因が多いため。(電気機械製造=津軽)

× 年収減、賞与減。燃料費(ガソリン、灯油)高沸。冬期に向け値上がりすると食費その他詰めるため消費も進まず”金”がまわらぬ。(タクシー=東青)

記号の意味：良くなっている、やや良くなっている、変わらない、やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」